



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO・DOHO・ENGOKAI

# 同援だより

2016年 盛夏号(177号)

<http://www.doen.jp/>



## 福祉は人なり

常務理事 中島 昭



先般五月二十五日の役員会において、平成二十七年年度の事業報告及び決算報告が承認されました。各施設が概ね所期の事業目的を達成することができました。関係機関や職員の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回の役員会におきまして、理事、評議員の一部交代があり、私は新たに常務理事を務めさせていただくこととなりました。皆様の「ご支援、ご協力」をよろしくお願い申し上げます。

さて、去る四月に改正社会福祉法が一部施行され、当法人においても、評議員選定委員会や会計監査人の設置など新社会福祉法人制度への対応が求められています。

また、当法人においても、来年五月に開設予定の(仮称)昭和郷複合施設の建設及び運営体制の整備、昭島病院の充実、介護や保育の人材確保、法人の将来を担う人材の育成など課題が山積しております。このような状況の中で、私はまず法人をあげて取り組まねばならないのは、人材の育成であると思います。当法人施設の利用者や地域の方々から信頼されるために、支援内容の充実やきめ細やかな情報の開示を図ることは言うまでもありません。しかし、それを支える職員抜きではその実現は不可能です。

「福祉は人」が私の信条です。その「人材」の確保・育成を図るためには、処遇面での改善を図ることも重要な要素ですが、何よりも、職員が、未来に希望をもって、生き生きと働ける職場を作ることが、最優先の課題であると思っています。

そのためには、『風通しの良い法人』を目指すとともに、総合的に物事を捉えられる人材の育成に力を入れたいと思っています。すべての職員が、可能な限り情報を共有するとともに意見を交換し合い、また、当法人のスキルメリットを活かした異動より、広い視野と幅広い人間関係を持った職員が増えていけば、「一人」が法人の運営に携わる意識を持つことにつながります。そのことにより、多くの課題について解決の道筋が見えてくると確信しています。

今まで非力な私を支えてくださった皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬ「ご支援」をお願い申し上げます。



## 新任のごあいさつ



理事 飯山 幸雄

伝統ある同胞援護会の理事に就任するに当たり、簡単な自己紹介とご挨拶を申し上げます。

私は、昭和四十五年（一九七〇年）に東京都職員となり、三十六年半勤めてまいりました。その間、二十八年は福祉関係の仕事をしてまいりました。主に現在の福祉保健局（私の在職当時、民生局から福祉局へ、そして福祉保健局へと変わりました。）におりましたが、最初の仕事は区の福祉事務所のケースワーカーでした。その後、局の管理事務や区の福祉事務所長、都の児童相談所長の仕事をいたしました。また、今は組織がなくなりましたが、私が赴任した時「百二十五年誌」を編纂していた、東京の福祉の原点である養育院にも勤めました。

その後福祉の部門を離れ多摩地域

で勤務し、当時の三多摩の市長さん、町長さんの知己を得ましたが、その中で特にご指導いただいたのが現在の北川昭島市長さんです。

三年間三多摩の仕事をした後は総務局、産業労働局、都市計画局（現在は都市整備局）の仕事をし、平成十五年（一九七〇年）に七年ぶりに福祉保健局に戻らせていただき、児童相談センター所長に就任いたしました。

当時も児童虐待が顕在化し、社会問題となってきました。国会でも議論され、当時の厚生労働大臣や国家公安委員長、そして政党有志の国会議員の方々が続けざまに視察に來られ、児童相談所の現実の姿を見ていかれました。児童福祉法を児童虐待に対応するための改正に当たり、厚生労働省の雇用均等・児童家庭局の担当者から全国児童相談所長協会会長として見解を求められたり、法律条文について相談を受け意見を述べたりいたしました。改正条文の「要保護児童対策地域協議会」とその守秘義務、守秘義務違反に対する「二年以下の懲役または五十万円以下の罰金」に関する規定はその時定められたものです。

平成十七年の初秋、縁あって東京都国民保険団体連合会の専務理事となり、平成二十四年春から現在の国民健康保険中央会の常務理事に就任いたしました。二十年ほどは国民健康保険、介護保険等の関係の仕事をしております。

現在、社会保障制度は医療保険制度を中心として大きな制度改正が行われています。すなわち、二〇二五年の超高齢社会を展望して持続可能な医療保険制度を構築するため、まず、国民皆保険制度のラストリゾートである国民健康保険制度の運営形態の変更（国保の運営を都道府県が市町村とともに、都道府県が財政運営の責任主体になることなど）を行い、国保の財政基盤の強化を図り安定的な保険給付を行うことと、また、医療供給体制に都道府県が大きな役割を担うようになることなどが進められています。

医療保険者については「保険者機能」を発揮することが求められています。特に保険事業を充実し、データに基づいて被保険者の健康の維持増進に積極的に取り組むことが重要とされています。

そして、今後の超高齢社会への対応として、医療と介護の連携による「地域包括ケア」を構築して人々が住み慣れた地域で最後まで生活できる社会を実現することなどが進められています。この「地域包括ケア」の実現には、本会のような地域に根ざし、経験と実力のある社会福祉法人が積極的にかかわっていくことが必要だと考えております。

また、この度社会福祉法が改正され、福祉サービスの提供主体である社会福祉法人の運営に大きな変更が加えられました。これは、一部社会福祉法人の運営に問題があったことから、事業費として公費が投入され、実質的に公的セクターとなつていく社会福祉法人の運営に国民の目が向けられてきたことによるものと考えられます。

このような状況の中で、同胞援護会の理事の一人に加えられたわけですので、これまでの仕事での経験を活かし、法人事業がますます発展し都民のウェルファアを高めることが出来まますよう、微力ながら尽くしていきたいと存じます。どうぞ宜しくお願いいたします。





## 退任のごあいさつ

前常務理事 菅原 眞廣

先般の役員会におきまして、五月二十九日付で常務理事を退任いたしました。二〇〇六年九月一日から同援に勤務、二〇〇八年五月三十日からは常務理事として、都合約十年間にわたりお世話になりました。この間、牧野理事長をはじめ、多くの役職員の皆様に支えていただき、何とか無事に卒業することができました。本当にありがとうございました。

都庁時代を含めて、私の仕事の大半は福祉関係の職場でしたが、同援での十年間が一番自身の濃い充実した時間であったように思います。三十を超える施設と、病院、事業局、これほど多種多様な現場をもっている社会福祉法人は多くはありません。その運営の司令塔ともいべき本部事務局での仕事は、困難であるとともに、やりがいのある仕事でした。

社会福祉法人の本部機能の強化が要請されていたであろうその時に同援に勤務させていただき、初めに取り組んだのがこの課題でした。意思決定の仕組みや組織をいじることには抵抗があることは承知し

ていましたが、施設長さんをはじめ皆で知恵を出し合い、当時の同援の組織力に見合った改革はできたと思います。今後も法人一体の経営のため、本部機能の強化に向けた改革は欠かせないものと思います。組織は生き物です。常に呼吸をしていることが大事です。

忘れられないのが、二〇二二年三月十一日の東日本大震災です。建物の大きな損傷はありませんでしたが、停電や放射能に汚染された飲料水の問題など、現場では様々な問題が持ち上がりましたが、我が同援の施設は平静を保ちながら困難を乗り切りました。法人の基本方針である利用者第一の姿勢が、大きな力になったと思います。常日頃、施設長会などで牧野理事長が言う「我が施設はおおむね順調に運営されている。」との言葉は、何よりも施設長さんをはじめ職員の方々の努力への賛辞と捉えてよいのではないのでしょうか。

社会福祉法人改革が目前に迫っていますが、当法人の「基本理念」と「基本方針」は変わるものではありません。皆さん方には、これから

も自信をもって施設運営に当たられることを願っています。

今後は常務としての職責は離れますが、同援の資料室の開設のため、もう少しお役にたつことが出来れば幸いです。東京都同胞援護会の歴史をどこから始めるのか悩ましい問題ですが、古いものから新しいものまで貴重な史料を収集整理し、より良い資料室を作っていきたいと思えます。

これから有り余る自由時間が与えられます。その時間を十分堪能し、新しいことにも挑戦していきたいと思っています。長い間本当にありがとうございました。





新 任 挨拶



総務部長 魚津 亮太

総務部長を拝命した六月一日は就職活動の解禁日でした。私も本会の就職説明会に数年前から参加させていただき、同僚援護会の魅力を伝えていきます。同援の魅力はいかなる社会情勢であつても地域とともに地道に社会福祉事業を行ってきたこと、一六〇〇人の仲間がいること、そして自分を磨ける研修体系や職場異動などで新たにチャレンジできる環境があることです。

私は障害者福祉を志して本会に入職しましたが、高齢者施設へ配属され、初めての介護で認知症の方の対応に苦慮し衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。当初は理想を抱き失敗も経験し、すぐに挫折しそうになりましたが、幸い適切な助言をしてくださる先輩方や声をかけてくれる仲間にも恵まれ思い留まり、今日に至っています。

また施設で働くことにより歴代の施設長の背中を見てまいりました。どのリーダーも個性豊かで職員を魅了していましたが、共通することは利用者は

もちろん、職員のことを大切に想ってくれたことでした。利用者も「人」、職員も「人」であり、人間の本来の欲求に差はありません。「人」を大切にすることが福祉の仕事の心髄であると私は考えています。

総務部長を命ぜられた際には正直戸惑い、私にその器量があるか大いに悩みましたが、これまで育ててくださった施設長方や先輩方をはじめ、仲間にとつて笑顔でやりがいを持って、働きやすい職場をつくること、また同援の魅力を内外に発信することでその恩を返すことこそ、今の私の使命であると考えています。

今年度は社会福祉法の改正により法人本部の機能も大きく変わります。また保育士や介護職員などの人材確保、給与制度や定年制度等取り組まなくてはならない課題が山積しています。このような大切な時期に職を与えられたことを重く受け止め、日々精進し職責を全うさせていただきたいと思えます。皆様のお力添えよろしくお願ひします。



同援はいじま保育園 園長 阿部 英子

同援はいじま保育園が開設する十一ヵ月前の平成二十七年七月一日に、仮称拜島駅前保育園準備室長の辞令を受けました。

建設の打ち合わせで初めて拜島を訪れ、現場を見学しましたが、前日の大雨で地下部分に目いっぱい水が入って、ヘルメットがぶかぶか浮かんでいました。現場周辺も地図に乗っていないような荒れた場所、今の様な状態を全く想像出来ず不安になった事を思い出します。しかし、後半から毎回打ち合わせの度に、建設中の建物を見学させて頂いた事で徐々に愛着が湧いてきました。また、新園開設という事で、自分が経験したことのない様々な仕事があり、いろいろな方に本当に沢山のサポートをして頂きました。

平成二十八年四月一日付けで同援はいじま保育園の園長に就任しました。同援はいじま保育園は、家庭的な雰囲気の中でこころと身体のためくまさを育てる保育園をめざしていきます。定員は五十名ですが、今年度は二十二名の園児でスタートしました。文字通り家庭的な保育園です。

子ども達にとつて「今何が大切か」を職員とよく話し合い、保育の楽しさ・難しさを共感していきたいと思えます。職員一人ひとりがやりがいを持つて仕事をもらえるように、風通しの良い職場作りをめざしていきます。そして自分自身も一緒に成長していけるよう、努力していきたいと思えます。どうぞご指導のほど、よろしくお願ひいたします。



万世敬老園 園長 小金澤康哲

入職してから特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員をそれぞれ経験させていただき、このたび、同じ高齢系ではありますが、養護老人ホーム万世敬老園の園長を拝命いたしました。

万世敬老園は、その成り立ちや歴史の古さから、同援の代名詞であると同ったことがあります。正直、その責任の重大さに、私にその大任が務まるかと不安に感じておりますが、利用者や職員の方々、皆さんのお力添えをいただきますが、これまで以上に頑張つてまいります。

同じ高齢系でも特別養護老人ホームしか経験したことがない自分にとつて、養護老人ホームは未知であり、ましてや定員二百名という大所帯の施設です。

しかし、初日に皆さんが笑顔で迎えてくださり、特に戸惑う様子もなく、正直ほっとしました。そして、今の自分には遠く及びませんが、一歩ずつ前施設長に近づけるよう着実な努力を重ねていく決意です。

現在、養護老人ホームは時代の変化とともにその役割も徐々に多様化しつつあり、増加する要介護者に養護老人ホームのあり方も介護ニーズに向けた対応を迫られているとこのことです。し



かし、昨今、老後破産や生活保護受給者の増加、社会的孤立など介護ニーズ以外で生活課題を抱えている高齢者も増えています。特に都市部で増えている制度の狭間に置き去りにされている高齢者にとって、養護老人ホームの重要な役割はむしろ以前よりも増大していると言えます。そんな養護老人ホームの役割を捉えながら、職員皆で努力してまいります。今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



むさしの保育園

園長 大堀 茂美

東京都同胞援護会に就職し、三十年目を迎えたこの四月、むさしの保育園園長を務めさせていただくことになりました。

平成十二年に保育士としてむさしの保育園に異動となり、平成十七年十月の方南分園の立ち上げに携わらせていただきました。公設民営で乳児保育園としての立ち上げは、色々な苦労がありました。皆で力を合わせ進めていきました。

その後異動となり、この四月再びむさしの保育園に戻って参りました。園舎も新しくなり、新しい保育園に生まれ変わっていました。園庭にはたくさん木々が生い茂り、さわやかな風が吹

く中、子ども達は元気に走り回り、笑顔にあふれていました。そんな元気な子ども達の笑顔を曇らせたくないよう、責任の重さを痛感しました。

昨年からは新制度がスタートしました。平成三十年には保育指針の改定も行われます。

待機児解消の為保育園が増園されていく中、保育士不足は否めない現状です。そして保育、保育士の質を問われる昨今、子ども達にとって何が大切なのかを第一に考え、職員や保護者の皆様と共に、成長していきたいと思えます。

先日研修の中で、「当たり前前の事、誰でも出来る事をきちんとする。この事こそが人に信用され、信頼されることになる。」と言われていました。この言葉を胸に刻み、毎日の生活の中で子ども達がキラキラと輝く瞳で、元気に走り回り、笑顔にあふれる毎日が過ごせるように初心を忘れずに、努めていきたいと思えます。今後ともご指導宜しくお願い致します。



ゆたか苑

園長 根本 昌廣

四月から副園長として従事してきましたが六月の人事異動により園長に就任致しました。園長として重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

私は、三月まで東京都に勤め、在職中

は主に福祉行政に携わり、特に社会福祉法人や高齢者施設の許認可、運営指導、指導監査業務等を二十年間担当してきました。本法人に採用され、これまで関わった特別養護老人ホームに配属していただき深く感謝しております。

介護保険制度が発足して十五年、制度は定着してきていますが、介護老人福祉施設の現状は政治的な問題にもなっている介護人材不足や介護報酬の改正など、課題が山積し運営は厳しい状況にあります。実際に職場に入り職員と緒に仕事をして、その現実を想像以上であることを実感しているところです。

ゆたか苑は、開設して二十年目を迎えるため、設備等の老朽化の対策や入居者の身体状況の重度化による介護体制の確保、介護職の育成など課題を抱えておりますが、早急に解決して行かなければなりません。

ゆたか苑の園長として地域の方々から信頼され地域になくはならない施設を目標に苑の理念である「丁寧でやさしい寄り添う介護」質の高い介護を目指して行きたいと思えます。

ゆたか苑の周辺は、商店街や一般住宅が多く、玄関前に面した区立公園には季節の花々が咲き乱れ、野鳥のさえずりも聞こえる環境の良い場所にあることから入居者の散歩にも活用させていただいておりますが、私自身もこの恵まれた環境と明るく元気な職員と仕事が出来ることが楽しみです。入居者

の皆様が安心して生活出来るよう、職員が健康で楽しく働けるよう、私の役割として取り組んで行く所存です。今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。



原町ホーム

副園長 河野 雄太

平成二十八年四月より特別養護老人ホーム原町ホームの副園長として就任いたしました。平成十五年五月より介護職員として入職以来変わることなく原町ホームにて勤めております。思えば入職当時、高齢者とはもとより福祉全般に対して何の知識もない私を迎え入れてもらい、成長させてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

十一年間の介護職員と二年間の在宅ケアマネージャーの業務を通して数え切れない経験をさせてもらいました。その中で印象的な出来事のひとつとして「初対面の高齢者の方と一日そばに寄り添う」ことがありました。私は「この方に対して私はどういったことができるのであろうか？」と考え積極的に話しかけその情報をもとに何か興味を持っていただけよう努めました。一日努力を続けましたがあまり良い表情は見られませんでした。終業時刻に高齢者の方よ



り「頑張つて何かしようとしなくていいんだよ。近くにいてくれれば」と言葉をかけていただき目が覚めたような気がしました。

「いまその時」を大切にしてかけがえない時間を利用者、スタッフの皆様とこれからも歩んでいこう、と思つています。東京都同胞援護会、そして原町ホームの歴史と伝統を大切に慢心せず、常に向上心と楽しさを持つて業務に取り組んで参ります。

利用者のみならず関わつてくださる全ての方々に敬意を忘れず「原町ホームにいて良かった」と感じる時間を一分でも長く持つていただけるよう努力いたします。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。



さいわい福祉センター  
副所長 内田 憲

この四月よりさいわい福祉センターの副所長を拝命いたしました。

本法人でお世話になってから今年で二十年目となりますが、この仕事に携わるきっかけは『福祉の仕事がしてみたい、高齢者のお世話がしたい』という単純な気持ちからでした。

福祉系の大学を卒業したわけでもなかったため、まずは勉強しようとして福祉系の学校(夜間)に通うことから始め、その時期にさいわい福祉センターの

非常勤職員として働き始めたのが福祉の仕事に携わるスタートでした。よくわからないまま福祉の業界に飛び込んだ私にとって、働き始めた当初は利用者への接し方なども分からず、常に不安と戸惑いの連続でしたが、こうして長く続けてこられたのも諸先輩方の教えや同僚職員の支えはもちろん、様々な利用者との出会いが自分を成長させ、少しずつ仕事に対する楽しさを見出すことができたからだと思つています。

はじめは高齢施設で働くことを考えていた私が、こうして今も障害者施設で働いていることに何か、月日の経過と不思議な縁さえ感じています。

当センターは開所して今年で二十一年目を迎えます。その間、法改正や制度の見直しもなされ、今年の四月からは障害者差別解消法も施行されました。

副所長という責任ある職に就かせて頂き、まだまだ未熟さを痛感していますが、変わりゆく福祉制度や法律に対応しながら諸先輩方がこれまで築いてきたものを継承し、利用される皆様からのニーズに添えていけるよう、誠実に取り組んでいきたいと思つています。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



むさしの保育園  
副園長 野田 泉子

四月より、むさしの保育園の副園長を務めさせていただくことになりました。

初めて就職したのが、都内とは思えないほど広い園庭と、自然豊かなむさしの保育園でした。それから異動を経て、昨年、十二年ぶりにむさしの保育園に戻ってきましたが、園舎も新しく、まるで違う保育園に来たような印象を受けました。

私はこれまでに、計五回の異動を経験し、その中でお世話になった園長は九名いらっしゃいます。子どもの事を思う姿勢や、命を預かる責任などを教えて頂き、学ぶ事が多く保育の楽しさも実感できました。悩んだり、仕事に行き詰つたりしたことも沢山ありましたがその都度、時間を割いて親身に話を聞いてもらつたりしたことで、今の私があると思つております。

今の自分の立場として、覚える事が本当に沢山ありますが、私が先輩方にお世話になったように、私も話を聞いたりアドバイスの出来る先輩にならなければと思つています。一緒に働いている職員の方にも「保育が楽しい」と思つて仕事が行くことが私の役割になつてくると思っています。

昨年より保育制度が変わり、平成三十年には保育指針の改正もあります。今の時代の子ども達に沿つた保育へと、制度が変わつていきますが保育士という仕事は社会的に認められるように日々頑張つて行きたいと思つています。

副園長になり、責任の重さに身の引き締まる思いであると同時に自分の未熟さを痛感する毎日ですが、周りの方々に感謝を忘れず私自身も楽しく仕事をしていけるように努力していきたいと思つています。



同援さくら保育園  
副園長 大越亜紀子

この春より同援さくら保育園の副園長を務めさせていただくことになりました。副園長という責任の重さを感じながら試行錯誤の日々ですが、一つひとつ学んで行きたいと思つています。

昨行われた入園説明会に参加させて頂いた保護者の方が終始笑顔で話を聞いてくれました。そして帰る際に「私、大山保育園を卒業したんです。」と声をかけて下さり二十年以上も前の思い出話に花が咲き、最後に「大山保育園がとても楽しかったので、同じ法人の保育園に娘を入園させたいのです。」と嬉しい言葉をいただきました。その時に私は今「さくら保育園で良かった」と思つてもらえるような仕事を行つてい



だろうかと振り返させられました。人の基本を育む大切な時期に関わる保育士の責任の重さを改めて感じる機会となりました。

昨年度から子ども子育て支援制度が始まり、また待機児問題・保育士の確保困難など様々な問題がある中で、更なる保育サービスの充実と保育士の資質向上が求められています。資質向上で何より大切なことは職員一人ひとりが仕事にやりがいを持って取り組むことだと思えます。そのためにも、常に職員の声に耳を傾け「楽しさ」「難しさ」を共感し合いやりがいを持てる職場作りに努力します。そして「お子さんと保護者の方が安心して利用できる保育園」「地域の方のニーズに応え充実した子育て支援」を目指し何事にも誠意を持って取り組んで行きたいと思えます。

退 任 挨拶



アミニテイ富士見

前所長 栗原 茂雄

この度、三月三十一日をもって定年退職いたしました。今日まで同援職員と

して、就業させていただき厚く御礼申し上げます。振り返れば昭和五十三年春、木造旧舎建物だった法人本部で、故高山理事長から辞令をいただき、軋む板張り廊下を歩きながら胸弾ませて勤務先施設へ向かった記憶が蘇ってきます。入職より何時しか歳月が経ち定年を迎えた今、これまで勤務した施設現場で、直面した様々な出来事が走馬灯のように流れていく思いがします。特に印象の大きなものに、昭和五十七年開設の小茂根福祉園と平成四年開設の福祉ホームさくらんぼがあります。この二カ所の障害者施設の立ち上げから関わったことは、今でも心に残る懐かしい思い出となっています。小茂根福祉園が開設された時代、当時としては全国初に等しい、新しい形態の複合型委託施設として注目され、全国各地から数多くの福祉関係者や団体の見学があったことを思い出します。また、障害者支援に携わる中で、様々な個性豊かな場面対応があったことを回想しています。平成十年代に入り新たな法制度導入により、福祉施設のあり方も大きく転換し変化したこととは云うまでもありません。

平成十八年にサンライズ青山へ着任。母子福祉における貧困問題、DV被害者・被虐待児へのケア、広域利用受け入れ拡充等々、直面する諸問題へ微力ながらも携われたことは、自身のよ成長にも繋り、思い出多い職場となりました。直近の職場は、知的障害者

共同生活援助事業所でした。定年後のこれからは、第二の人生を楽しんで過ごしていきたいと思えます。永い間ありがとうございました。東京都同胞援助会の益々の発展をお祈りいたします。



むさしの保育園

前園長 森 浩美

子どもの頃から憧れていた「保育士さん」になってから、長いようで、短い三十六年が過ぎ、ここで、退職させて頂くことになりました。

国家資格となつてからは、「保育士」と名称も変わりましたが、「保育士さん」の呼び名に慣れていた私です。勤務スタートは、開設三年目を迎える、同援みどり保育園でした。

新卒の私は、子どもたちと毎日クタクタになる迄走りまわり、時には、泥んこになつて一緒に遊ぶ毎日でした。子どもたちの全身で喜ぶ姿や「先生、見て見て」と、目を輝かせて発見したことを得意げに話してくれる…そんな笑顔や表情が私をととても幸せな気持ちにしてくれました。同援みどり保育園では、十九年という長い間勤めさせていただきましたが、子どもたちの思わぬ事故、怪我、そして保育士の仕事の多さなど、辞めてしまいたくなる気持ちの時々ありました。しかし「先生、おはよう」と朝

元気に、笑顔で登園してきてくれる声に励まされ、また、先生方と「子どものために」と、色々なことを企画・作成し、「一緒に取り組んで来たことが、保育士としての土台を作ってくれた」と思います。本当に感謝です。

その後は、むさしの乳児保育園、むさしの保育園統合の平成十二年に異動。

広い庭、長い歴史を刻んできた時計台。そして、サトウ・ハチロー作詞の園歌。小さな子どもでもくちづさめる、かわいらしい曲。一度で好きになりました。平成十七年には、大雨による川の氾濫で、園舎が浸水したこともありました。大きな損害でしたが、ここでも職員の協力で、無事に保育を開始できました。

つづが丘保育園、大山保育園と異動後、新園舎建て替えの、むさしの保育園に戻ってきました。敷地内での、建て替えでしたので、当時の園長をはじめ、職員の尽力があつてこそ、完成したものと思えます。

こうした、三十六年の保育士生活を大過なく、終えることができましたのも、職員の方々と話し合い協力していただいたものと思えます。本当にありがとうございました。





## 同 援 の 九 つ 目 の 保 育 園

同援はいじま保育園 園長 阿部英子



同援はいじま保育園は、昭島市の待機児童解消などの子育て支援のためにスタートしました。その後、昭島市との協議、設計・建設業者との打ち合わせ、開設準備等を経て、平成二十七年三月三十日に工事着工となりました。

工事においては、敷地内の埋設物の撤去や擁壁の建設、接道されていない敷地への資材搬入経路の確保、周囲の道路工事の調整等、多くの課題がありました。しかし、昭島市との協議を重ね、法人・設計業者・施工業者が一丸となつて工事を進めることができました。一時期深刻であった工事の遅れを取り戻し、平成



二十八日二月十五日に竣工となりました。その後行政等の検査を終え、保育所として認可を受けました。

**建物のコンセプト**

建物のコンセプトは、都会的かつ家庭的な保育園です。外観はシンプルですが、内装はあたたかみのあるものを選び、設備も家庭的なものを選びました。保育室の北と南の二面の壁はガラスなので、とても明るく風通しも良いです。可動間仕切りによりフレキシブルに活用できる保育室や屋上園庭等、子どもたちが楽しく過



ごせる保育園になっています。

**認可保育園としてスタート**

東京都同援会の九番目の認可保育園として平成二十八年四月一日に開園しました。JR青梅線・西武新宿線拝島駅から南へ徒歩三分と立地が良く、駅から保育園までの周辺はきれいに整備されています。

定員は二歳児から五歳児までの各十名の計五十名で、育児休業明けの二歳からと預け易い保育園になっています。昨年の入園募集の段階では、建物も完成していなかった事もあり入園希望は二十二名でした。新設園のため全園児が新入園児、また保育園経験のないお

子さんが殆どでした。

園児・職員は地下三階地上三階の新しい建物に日々、わくわくしながら過ごしています。屋上からの眺めはとても良く、富士山など山々がきれいで四季の移り変わりと共に今後も楽しみです。子どもたちはみんなで育てた野菜などでバーベキューやクッキングをしました。プール遊びも始まり七月二日で三十名の子ども達が、青空の下で元気に遊んでいます。

同援はいじま保育園は、グループの保育理念である「愛・夢・未来を創造する広場」として、地域の皆様に愛され、利用して頂ける保育園となるよう、職員一同努力を重ねていきたいと思えます。

次世代を担う子ども達にとって乳幼児期は人間形成の基礎となる大切な時期です。その大切な時期を二人ひとりに寄り添いながら見守っていきます。そして、この保育園の機能を最大限に活用し、子ども達が楽しく充実した毎日を過ごせるようにしていきたいと思えます。また、安心して安全な保育園をめざしていきます。

この保育園の建設・開園にあたり、多くの方々にご尽力を頂きました。誠に有難うございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 立川福祉作業所の建て替えを終えて 新たなスタートです

立川福祉作業所 所長 飯島 一憲

立川福祉作業所はおおよそ一年半に及ぶ建て替え工事が無事終了し、今年の二月に竣工式を終えました。新たに生まれ変わった立川福祉作業所を紹介致します。

建物は、鉄筋コンクリート及び鉄骨造の二階建てになります。屋上に庭園と運動場を配置しました。まず目を引くのが建物の外観です。建物を正面からみると、大きな青い柱が等間隔に五本あることに目がいきます。とても個性的で近代的なデザインになっているところ



ですが、周囲の建物とほどよく溶け込み、違和感のない造りになっています。また施設の玄関そして運営するパン屋さんの玄関の表情も様々な方が自然に入つてこられるような作りになっています。

館内に関しては、二階、二階ともとても開放感があり、明るい作りになっています。特に二階の作業室については、柱を用いない工法を採用した結果、とても広い作業スペースが確保できました。多目的ホールを含め、利用者が安全に、快適に作業や活動をする上でこのうえない環境が整えられたところです。

また、二階の食堂は、百名あまりの方が食事をする上で十分な広さを確保しました。

屋上には、緑を意識し、庭園をつくりました。その周りに通所の利用者の方がかくつろげるように椅子とテーブル



ルを設置。立川という都会の屋上でお茶を飲む時間など演出できます。運動場もあり、施設としては、様々なアクティビティを提供できる環境になりました。

立川福祉作業所の大きな活動の一つである、ベーカリー&カフェ「BAKU」も再オープンにむけて、とてもすばらしい店舗および厨房ができました。五月十七日に再オープンをしたところですが、これまで連日多くのお客様がきていただいています。商品をつくる厨房も利用者の方が一緒にパン作りができるように十分な広さを確保したところです。

こうして新しくなった建物では、今まで継続してきた事業を更に発展させるべく取り組むところであります。「生活介護事業」「就労継続支援B型事業」「就労移行支援事業」のいわゆる多機能型の施設として法的には位置づけられるところですが、障害のある方々が誇りをもつて働きたいという想いがある施設作り、利用者にとつての会社を作つていけたらと思います。また、「BAKU BAKU」を中心に地域の方々には「おいしいパン」を買ってもらふことで、利用者の社会参加につなげること、一方では、お客様が福祉の現場に興味を抱いていただければと思っています。実際に今回、お店を再オープンさせるにあたって、数名の方をスタッフとして募集をかけました。そうしたところ、建て替え前のお客様が、今度は一緒に働いてみたいとい

うことで応募してきた人ばかりでした。それほど地域の方々に待ち望まれていたという点では、本当にこれからも気を引き締めてやつていかなければと思うところです。

また、様々な会社からいただいている箱織の作業や食品の封入、リネン作業等を大切にして、今まで何年もかけて培ってきた信頼を落とすことなく、利用者の方と一緒に仕事をやつていけたらと思います。

その他、利用者の余暇の支援やグループホーム(結オハナ、夢オハナ)のバックアップ、地域貢献などやるべきことはたくさんあります。

今回、施設がリニューアルしたことを契機にしっかりとそれらの課題と向き合いながら、利用者、地域の方々のために役立つ施設を目指します。





## 平成27年度 事業報告について

平成28年5月25日に開催された理事会・評議員会において「平成27年度事業報告」並びに「平成27年度決算報告」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを10ページから15ページのとおり紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成27年度事業報告・決算報告書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧していただけます。

## 平成27年度 事業 報 告

平成27年度の日本の景気は、税収の伸びや雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかに回復していますが、個人消費の長期停滞への不安や海外景気の下振れなど、今後の景気動向を左右する要因も多く、先行き不透明な状況が続いています。

国会において社会福祉法人改革を柱とした社会福祉法改正案が成立いたしました。また、持続可能な社会保障の確立に向けたさまざまな見直しや「子ども・子育て」の分野における待機児童解消に向けた対策など、多くの課題が議論されました。

当法人においては、引き続き利用者サービスの一層の充実を図るため施設運営に万全を期すとともに、人材の確保及び育成に努めました。

まず、施設運営については、利用者への個別計画に基づいた適切なサービスを提供するとともに、老朽化した設備の更新など利用者の安心・安全を確保するための対策を推進いたしました。

老朽化した施設の更新については、立川福祉作業所の改築工事が完了となりました。

また新規の施設として、昭島市の同援はいじま保育園が竣工し、(仮称)昭和郷高齢者複合施設においても計画通り建設に向けた工事が進んでいます。

次に、人材の確保については、27年度も新規学卒者の計画的な採用を進めてまいりました。また人材の育成については、新規職員から施設長まで階層別に法人研修を実施したほか、各支援系グループにおける分野別の研修、更には海外研修を行い、職員の資質向上に繋げました。

最後に昭島病院ですが、入院、外来共に患者数が減り、厳しい財政運営となりました。そうした中でも、地域包括ケアシステムの構築を目指し、関係医療機関等との連携を図るとともに、地域の中核病院の役割を担って参りました。

この一年、施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。



同 援 だ よ り

平成27年度 施設利用状況報告

平成28年3月31日現在

グループ名	種 別	施設名	利用状況							職員配置状況				常勤換算								
			定 員	利用者数 (3月実績)	1日平均 利用者数	年間 利用者数	年間実施 延日数	年間利用率			正規 職員	臨時職員 数	非常勤 職員		職員数 合計							
								27年度	26年度	前年対比												
保育支援系	保 育 所	むさしの保育園	169	180	181.5	53,370	294	107.4%	104.3%	3.1%	38	1	21	60	49.7							
		本園	140	151	151.3	44,494	294	108.1%	105.4%	2.7%												
		方南分園	29	29	30.2	8,876	294	104.1%	99.1%	5.0%												
		昭和郷保育園	100	116	115.9	34,078	294	115.9%	115.7%	0.2%												
		大山保育園	130	130	129.9	38,197	294	99.9%	101.4%	-1.5%												
		昭和郷第二保育園	190	204	198.9	58,463	294	104.7%	106.5%	-1.8%												
		みなと保育園	70	71	72.0	21,169	294	102.9%	100.8%	2.1%												
		同援みどり保育園	125	130	130.0	38,220	294	104.0%	103.8%	0.2%												
		つつじが丘保育園	110	136	134.8	39,637	294	122.6%	119.6%	3.0%												
		同援さくら保育園	108	120	120.0	35,280	294	111.1%	112.9%	-1.8%												
保育施設 計			1,002	1,087	1,083.0	318,414	—	108.1%	107.8%	0.3%	205	16	147	368	308.6							
高齢者支援系	養護老人ホーム	万世敬老園	200	198	196.8	72,035	366	98.4%	99.3%	-0.9%	21	6	21	48	44.5							
		サンホーム	50	50	49.9	18,270	366	99.8%	100.0%	-0.2%												
	軽費老人ホーム	ライトホーム	50	28	31.2	11,405	366	62.3%	72.7%	-10.4%	1	1	2	4	3.4							
		救護施設 昭島荘	100	100	99.5	36,429	366	99.5%	99.0%	0.5%												
	小計			400	376	377.4	138,139	—	94.4%	96.0%	-1.6%	—	—	—	—	—						
	特別養護老人ホーム (短期入所生活介護事業含)	フジホーム	104	101.2	98.8	36,150	366	95.0%	94.9%	0.1%	34	16	19	69	61.5							
		ニューフジホーム	104	98.2	98.6	36,088	366	94.8%	93.4%	1.4%												
		原町ホーム	52	52.2	52.1	19,074	366	100.2%	99.1%	1.1%												
		ゆたか苑	54	51.8	52.2	19,114	366	96.7%	96.6%	0.1%												
		ひかり苑	54	54.8	53.3	19,490	366	98.6%	99.4%	-0.8%												
		小計(介護施設)			368	358.2	355.0	129,916	—	96.5%						96.0%	0.5%	—	—	—	—	—
		認知症対応型老人共同生活援助事業 (グループホーム)	かえで	9	8.3	8.0	2,945	366	89.4%	90.7%						-1.3%	2	4	3	9	8.0	
			原町グループホーム	18	17.9	17.6	6,459	366	98.0%	98.0%						0.0%						
		老人 デイサービスセンター	フジ・デイサービスセンター	25	18.2	17.0	5,247	309	67.9%	67.6%						0.3%	3	0	11	14	11.0	
			フジ・デイホーム	10	5.2	5.9	1,810	309	58.6%	67.7%						-9.1%						
	地域包括支援センター	原町デイサービスセンター	12	6.0	6.7	2,080	310	55.9%	59.7%	-3.8%	0	1	6	7	6.6							
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	12	7.7	8.7	2,702	309	72.9%	65.1%	7.8%												
	居宅介護支援事業所	新宿区榎町高齢者総合相談センター	—	872件	39.7件	12,221件	308	—	12,568件	(-2.8%)	10	0	2	12	10.6							
		昭島市中部地域包括支援センター	—	830件	33.2件	9,716件	293	—	10,272件	(-5.4%)												
		フジホーム	—	74	3.8	931	243	—	1,013	(-8.1%)												
原町ホーム		—	82	3.1	919	298	—	913	(0.7%)													
ゆたか苑		—	87	4.2	1,009	243	—	1,030	(-2.0%)													
ひかり苑		—	46	2.0	485	243	—	381	(27.3%)													
小規模多機能型居宅介護事業			25	22	21.2	7,748	366	84.7%	62.9%	21.8%	4	2	9	15	11.9							
小計(介護在宅)			111	374.3	98.2	32,335	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
公 益 事 業	フジホーム診療所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
	介護職員初任者研修事業	—	—	—	—	—	—	—	—													
高齢者施設 計			879	1,109	830.6	300,390	—	93.3%	93.3%	0.0%	242	74	182	498	447.8							
障害者支援系	障害者支援施設(入所)	さやま園(居住)	96	84.9	86.3	31,581	366	89.9%	91.6%	-1.7%	57	12	41	110	90.6							
		生活介護	(96)	84.3	86.7	23,397	270	90.3%	93.1%	-2.8%												
		短期入所	4	4.3	1.3	462	366	31.6%	26.8%	4.8%												
		小茂根福祉園	40	27.4	30.4	7,418	244	76.0%	80.8%	-4.8%												
		就労継続支援B	30	27.3	27.4	6,685	244	91.3%	97.4%	-6.1%												
		生活介護	30	28.3	25.9	6,988	270	86.3%	85.9%	0.4%												
		川川福祉作業所	35	34.5	32.6	8,809	270	93.2%	94.8%	-1.6%												
		就労移行支援	10	10.2	9.3	2,520	270	93.3%	92.6%	0.7%												
		生活介護	30	28.1	27.9	6,746	242	92.9%	91.5%	1.4%												
		東村山生活実習所	10	9.4	9.1	2,202	242	91.0%	112.9%	-21.9%												
	短期入所	2	2.4	0.7	261	366	35.7%	34.1%	1.6%													
	心身障害者福祉ホーム	—	263	8.4	3,086	366	—	2,467	(25.1%)	13	2	6	21	18.9								
	身体障害者福祉センター	—	728	26.9	9,859	366	—	10,717	(-8.0%)													
	共同生活援助事業 (知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%	—	(1)	—	0	—							
		グリーンハイツ	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%												
		フレンズ・モエ	5	5	5.0	1,830	366	100.0%	100.0%	0.0%												
		パル	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	95.7%	4.3%												
		それいゆ小川	7	7	7.0	2,562	366	100.0%	100.0%	0.0%												
ファーム竹丘1		6	6	6.0	2,199	366	100.1%	93.8%	6.3%													
ファーム竹丘2		7	6	6.7	2,456	366	95.9%	100.0%	-4.1%													
レジオンス巣鴨		4	4	3.8	1,387	366	94.7%	100.0%	-5.3%													
はなみずき		4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%													
ユーカリ		4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%													
夢オハナ	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	98.6%	1.4%														
結オハナ	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%														
障害者施設 計			354	1,458	439.4	134,356	—	90.1%	92.0%	-1.9%	146	26	93	265	219.6							
児童・女性支援系	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	20	19	17.5	6,396	366	87.4%	92.0%	-4.6%	6	4	4	14	10.4							
		緊急一時保護事業	1	0	0.3	122	366	33.3%	55.6%	-22.3%												
		サンライズ青山	20	8	8.1	2,967	366	40.5%	64.6%	-24.1%												
		緊急一時保護事業	1	3	0.2	63	366	17.2%	13.7%	3.5%												
		サンライズ万世	20	18	18.8	6,878	366	94.0%	95.8%	-1.8%												
	緊急一時保護事業	2	0	0.2	75	366	10.2%	3.8%	6.4%													
	児童養護施設	双葉園	50	49	49.8	18,216	366	99.5%	96.3%	3.2%	23	7	11	41	42.1							
		双葉園	(38)	(36)	37.8	13,824	366	99.4%	95.8%	3.6%												
		高嶋の家(地域小規模)	(6)	(6)	6.0	2,196	366	100.0%	99.3%	0.7%												
		くすのき(地域小規模)	(6)	(6)	6.0	2,196	366	100.0%	96.3%	3.7%												
昭島市子どもトワイライトステイ事業	2	18	—	325	366	—	—	—														
婦人保護施設	いこいの家	40	7	11.5	4,219	366	28.8%	22.3%	6.5%	7	4	4	15	12.1								
児童厚生施設	昭島市児童センターぱれっと	—	5,275	191.6	63,420	331	—	64,732	(-2.0%)													
放課後児童健全育成事業	つつじが丘北学童クラブ	50	758	31.9	9,387	294	63.9%	55.9%	8.0%	0	0	6	6	3.9								
児童・女性施設 計	206	6,137	329.9	111,743	—	70.4%	71.7%	-1.3%														
施設合計			2,441	9,791	2,683.0	864,903	—	96.0%	96.2%	-0.2%	655	136	463	1,254	1,074.7							
医療	病 院	昭島病院	199	15,392	589.7	176,864	366	—	181,878	(-2.8%)	177	0	139	316	252.2							
		入院	199	4,117	125.7	46,016	366	63.2%	69.3%	-6.1%												
		外来	—	11,275	464.0	130,848	282	—	131,508	(-0.5%)												
訪問看護ステーション	—	258	13.4	3,259	282	—	3,419	(-4.7%)	4	0	2	6	—									
事業局	—	—	—	—	—	—	—	—														
収益	土地・建物賃貸	—	—	—	—	—	—	—	—	14	2	1	17	16.0								
不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—	—	—														
合計(福祉施設29、病院1、事業局1、その他事業29)			2,640	25,441	3,286.1	1,045,026	—	—	—	—	850	138	605	1,593	1,342.9							

注1 定員については母子生活支援施設は世帯数で他施設は人数。 注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。



同 援 だ よ り

資金収支計算書

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	10,694,280	10,221,641	167,623	315,264	▲10,248
	事業活動支出計(2)	10,011,324	9,591,644	148,335	281,593	▲10,248
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	682,956	629,997	19,288	33,671	0
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	823,660	822,264	1,396	0	0
	施設整備等支出計(5)	1,554,340	1,471,774	50,779	21,787	0
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	▲720,680	▲649,510	▲49,383	▲21,787	0
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	399,615	416,496	55,000	13,887	▲85,768
	その他の活動支出計(8)	237,852	306,739	3,681	13,200	▲85,768
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	161,763	109,757	51,319	687	0
当期資金収支差額合計 (10)=(3)+(6)+(9)		124,039	90,244	21,224	12,571	0
前期末支払資金残高(11)		3,041,360	2,928,891	17,772	94,697	0
当期末支払資金残高(10)+(11)		3,165,399	3,019,135	38,996	107,268	0



同 援 だ よ り

事業活動計算書

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
サービス活動増減の部	サービス活動収益計(1)	10,576,159	10,102,853	166,728	315,208	▲8,630
	サービス活動費用計(2)	10,417,874	9,986,124	148,292	293,706	▲10,248
	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	158,285	116,729	18,436	21,502	1,618
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計(4)	159,250	159,918	895	55	▲1,618
	サービス活動外費用計(5)	38,189	37,349	718	122	0
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	121,061	122,569	177	▲67	▲1,618
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		279,346	239,298	18,613	21,435	0
特別増減の部	特別収益計(8)	835,064	844,398	67,206	1,151	▲77,691
	特別費用計(9)	819,062	870,842	5,077	20,834	▲77,691
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	16,002	▲26,444	62,129	▲19,683	0
税引前当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		295,348	212,854	80,742	1,752	0
法人税、住民税及び事業税支出(12)		1,453	552	0	901	0
当期活動増減差額 (13)=(11)-(12)		293,895	212,302	80,742	851	0
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(14)	6,390,681	6,273,485	19,667	97,529	0
	当期末繰越活動増減差額 (15)=(13)+(14)	6,684,576	6,485,787	100,409	98,380	0
	基本金取崩額(16)	0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額(17)	357,396	357,396	0	0	0
	その他の積立金積立額(18)	237,852	237,852	0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (19)=(15)+(16)+(17)-(18)	6,804,120	6,605,331	100,409	98,380	0



## 同 援 だ よ り

## 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位:千円)

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
<b>資産の部</b>					
流動資産	4,370,303	4,157,189	56,322	163,834	▲7,042
固定資産	17,287,922	17,190,099	68,964	231,533	▲202,674
(基本財産)	9,461,767	9,461,767	0	0	0
(その他の固定資産)	7,826,155	7,728,332	68,964	231,533	▲202,674
<b>資産の部合計</b>	<b>21,658,225</b>	<b>21,347,288</b>	<b>125,286</b>	<b>395,367</b>	<b>▲209,716</b>
<b>負債の部</b>					
流動負債	1,641,215	1,558,915	17,295	72,047	▲7,042
固定負債	1,457,515	1,456,283	0	203,906	▲202,674
<b>負債の部合計</b>	<b>3,098,730</b>	<b>3,015,198</b>	<b>17,295</b>	<b>275,953</b>	<b>▲209,716</b>
<b>純資産の部</b>					
基本金	997,735	991,500	0	6,235	0
国庫補助金等特別積立金	4,928,287	4,926,885	1,402	0	0
その他の積立金	5,829,353	5,808,373	6,180	14,800	0
次期繰越活動増減差額	6,804,120	6,605,331	100,409	98,380	0
(うち当期活動収支差額)	293,895	212,302	80,742	851	0
<b>純資産の部合計</b>	<b>18,559,495</b>	<b>18,332,089</b>	<b>107,991</b>	<b>119,415</b>	<b>0</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>21,658,225</b>	<b>21,347,287</b>	<b>125,286</b>	<b>395,368</b>	<b>▲209,716</b>



## 財 産 目 録

平成28年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

(単位:千円)

I 資 産 の 部		¥21,658,225
(1) 流 動 資 産	¥ 4,370,303	
(2) 固 定 資 産	¥17,287,922	
ア.基本財産	¥ 9,461,767	
イ.その他の固定資産	¥ 7,826,155	
II 負 債 の 部		¥ 3,098,730
(1) 流 動 負 債	¥ 1,641,215	
(2) 固 定 負 債	¥ 1,457,515	
III 差 引 純 資 産		¥18,559,495

## 監 事 監 査 報 告 書

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会  
 理事長 牧 野 洋 一 殿

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会  
 監 事 鈴 木 道 生  
 監 事 岩 井 令 雄

私たち監事は、社会福祉法第40条及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会定款第26条に基づき、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの平成27年度の事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の財産の状況について監査いたしました。その結果につき本報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

## [1] 監査の方法の概要

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、貴法人の本部及び各施設における業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表及び事業報告書につき検討いたしました。

## [2] 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記帳し、資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表及び付属明細書並びに財産目録の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表及び財産目録は、法令及び定款に従い法人の財産、資金収支及び事業活動の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を示しているものと認めます。
- (4) 理事の職務遂行に関する不整の行為及び法令もしくは定款に違反する重要な事実は認められません。



し  
せ  
じ  
通  
信

◆さいわい福祉センター◆

「東久留米市障害者就労支援室さいわい」では障害を持つ方々の就労について様々な支援を行っています。企業就労を希望される方からの相談や関係機関と連携した準備支援、生活支援、定着支援等があります。定着支援とは、企業担当者と連携して仕事の幅を広げたり、出来ない部分について障害特性なのか、アプローチの方法を変えれば出来るのかを見極めたり、職場環境を整える等の支援です。就労支援室さいわいでは、安定して働き続ける為の定着支援を特に力を入れており高い定着率を維持しています。

余暇支援としては、毎月第二金曜の夕方におしゃべりやゲームをして自由に楽しく過ごす「たまり場」という集まりを開催しています。就職すると職場と家の往復だけになりがちですが、たまり場を通してプライベートで遊びに出掛けたりと仲間作りにも役立っています。また、たまり場では定期的に勉強会も実施しています。就労している方々は一人で色々なことができる分、トラブルに巻き込まれる危険も少なくありません。迷惑メールや勧誘についてなど、簡単ではありますが講義をして

います。その他に年三回の懇親会を企画しています。夏は流しソーメン、秋は日帰りバス旅行、春はボウリング大会でとても多くの方が楽しみに参加されています。

これらの取り組みが少しでも本人のストレス発散になればと考えていますが、一方で職場の様子や悩みなどの情報を得る機会にもなっており、変化があった場合にも早期対応につながっています。悩みなどを話しやすい雰囲気、環境作りも支援の一つです。

障害を持ちながらも、自分にできること、やりたいことを探して社会の一員として働いている姿は、私たち就労支援スタッフに寄り添う支援の大切さを教えてくれます。今後、法人内でも障害者雇用が広まっていくことを願っています。

(渡辺 記)



◆昭和郷第二保育園◆

昭和郷第二保育園の園庭に、今年一月大型遊具が完成しました。名前は「トムテのアスレチック」です。

幼児向けの大型遊具を作りたい！という職員の希望でプロジェクトチームを立ち上げ、業者さんと設計から何度も話し合い完成を目指して二年。職員の希望は、楽しく遊べる中でも、子ども達に必要な運動が出来るもの、少し頑張らないと勇気を出さないと到達はしないものでした。アイデアを出し合う中で、「園庭にでないと思像できない！」と、園庭に出て高さや大きさなどを計りながら考え、悩んだことも多かったのですが、子ども達が遊ぶ姿を想像しながら進めることにとってもわくわくしました。

園庭に囲いを作り、工事は子ども達がテラスで遊んでいる中でも行われました。出来上がる様子を近くで見ることができ、子ども達の期待も大きく「あそこは何ができるのかな？」「トンネルがある！」と毎日楽しみに完成を迎えました。

遊具の内容は、幼児向けの滑り台・雲梯・登り棒・縄のトンネル・たいこ橋・がんば段（高さが有る階段状の段）秘密の屋根裏部屋（縄梯子で登る）です。初め、子ども達は高さが有る遊具に少しドキドキしながらも、すぐに慣れ、年長が遊ぶ様子を年下の子ども達も見ているように励ましました。一階部分は、通路や砂遊びも

同 援 俳 壇

万世敬老園 あじさる句会

長閑さや

台船一漕 曳かれ行く

菖蒲葺き

わざわい被う 田舎かな

月岡 久三

しづけさに

草笛くん風 のってくる

ざぶとんを

とばす夏場所 波乱あり

赤松ハツエ

空みあげ

園児等の目は 鯉のぼり

宣 準子

初がつお

さしみとビール 父の声

河田 文江





(木下 記)

できる部屋があり、乳児も隠れ家のようにして楽しんでいます。特に屋根裏部屋は、子ども達にとっても特別で、小窓から見える景色や狭いスペースでも落ち着ける雰囲気はお気に入りようです。その姿を見て職員も大満足。

最後に「トムテ」とは、北欧の妖精、子どもの守り神です。園内には人形のトムテがいてくれ、いつも子ども達のことを見守ってくれています。これからも、子ども達の笑顔がたくさん見られることでしょう。

◆ 原町ホーム ◆

私たち原町ホームのある新宿区では平成二十八年四月から総合事業が開始されました。これは平成二十七年四月の介護保険法の改正により「地域における多様な主体が参画し、介護予防や生活支援に係るサービスを充実することで、地域全体で要支援者等への効果的かつ効率的な支援を目指す」というような内容になっています。

地域包括ケアの実現へ新宿区の高齢者が大都市の区民としてふさわしい活き活きと豊かな地域生活を送れるよう、心身機能の向上に加えて参加活動の視点に沿ったサービスを提供することを目標にした「ミニデイ・カフェ原町」を四月より実施しています。

内容としては原町高齢者複合施設の地域交流室において毎週火曜日十四時～十五時半まで、ステップアップ体操、スウェーデン式音楽ケア・ブネセラピー、スウェーデン式音楽ケア・ブネセラピー、フターヌーン栄養教室を各週に分けています。



で行っています。

認知症の前駆段階としての軽度認知障害(mild cognitive impairment: MCI)への取り組みを含めた活動により、地域の中に安心と信頼のコミュニティを形成できるように努めてまいります。

新宿区での対象者は要支援または二の方およびチェックリスト該当者となっており、従前の介護保険ではサービスの使えなかったチェックリスト該当者が含まれています。既存の制度では対応できない地域課題に対し社会福祉法人としての存在意義を如何なく発揮し「地域とともに生きていく」原町ホームと、地域の皆様にも感じてもらえるようこの取り組みを大切にしていきたいです。(河野 記)



昭島荘 道句会

ふわふわと

風に流れる 春の雲

美知子

リハビリで

歩く道ばた

犬ふぐり

きぬえ

お茶碗に

桜一ひら 浮かします

通子

巖積む

大野が原に 風渡る

安曇野に

廻る水車や 春の雲

ちえ





### 「地域包括ケア病床をはじめました」

昭島病院 事務長 山川浩一

#### 地域包括ケア病床って？

当院では「地域包括ケア病床」を四月から三A病棟五十床のうち十六床ではじめました。

従来の一般病棟は症状が安定すると、早期に退院しますが、退院後の自宅療養には不安がある患者さんが多いのも実情です。

そういう患者さんが更に入院を続け、在宅復帰に向けた治療やリハビリを行うことができるのが「地域包括ケア病床」です。入院期間は六十日を限度としています。

#### その機能は？

「自分で食事が摂れるように、トイレに行けるようになど」患者さんによって様々ですが、在宅復帰に向けた医療サービスや支援を受けることができます。

また、在宅復帰後に必要なケアについて医療ソーシャルワーカーと一緒に検討し、必要なサービスを用意することができま

す。当院では訪問看護ステーションを併設していますので、退院後利用するというプログラムを組むこともできます。

#### 地域包括ケアシステム

さらに、地域の訪問介護やデイサービス

スなど介護保険事業、相談窓口である地域包括支援センター等と連携して在宅生活をすすめるうえで必要なサービスを受けられるのが「地域包括支援システム」という取組です。

当院の「地域包括ケア病床」もそのシステムの一部ということになります。

地域ケア会議では、昭島市、社会福祉協議会、包括支援センターなど七事業所が集まり、事例の検討、地域の課題抽出について話し合っています。

地域と病院がそれぞれの機能をつなげ、在宅生活を支援するシステムの拡充が重要なことと考えています。

当院の地域包括ケア病床は、患者さんの状態、ご家族の意向を踏まえ病院内関係部署、さらに地域の行政機関や事業所などと複層的な連絡調整が不可欠です。治療だけに終わらず、患者さんの次の生活も一緒に考えさせて頂くつもりで取組はじめた事業です。

今後は患者サービス充実のため、地域包括ケア病床の拡大を検討するとともに、地域に根ざし、患者さんに気持ち良くお帰り頂ける病院を目指して努力して参ります。

### 「原町ホームの持ち上げない介護」が新宿区長賞を受賞

原町ホーム 園長 佐々木末廣

かねてより原町ホームではご利用者の安全・安心サービスの二環として移乗の際にご利用者の体を持ち上げて不安定な位置にするのではなく、安心して移乗できるスライディングボードやフレックスポードを使用した持ち上げない移乗方式を採用して来ましたが、そして原町ホームの全職員がこの方式を採用できたことにより、職員自身の腰痛予防にも大きな効果が生まれています。このことが新宿区介護事業者表彰制度において最優秀の事業内容であると評価され新宿区長賞を受賞いたしました。

私たちがこの「原町ホームの持ち上げない介護」にチャレンジしたのは、実は十年も前からなのです。最初の一步は利用者にとり安全安心の移乗ができるか、次にどうしたら職員の腰痛を防止できるかの問いに答えることでした。そのために介護職員の技術向上のための取組として二〇〇九年には検討委員会を設置し、組織の内部にとどまらず外部からの意見・評価を受け入れる態勢を築きました。とりわけ福祉先進国のスウェーデンからの福祉サービスのあり方を学ぶためスウェーデンクオリティケアのご協力もいただいて取り組むべき課

題を整理して参りました。二〇二〇年には、スウェーデンのエスロプ市の医療責任看護師へのインタビューをインターネットを利用し、リアルタイムで日本から行いました。またベッドサイドでの実践を通して確実な持ち上げない介護を完成させていったのです。このような継続した努力により今日の「原町ホームの持ち上げない介護」が完成しました。

また、これらの成果を六十頁の書籍にまとめ、なぜ「持ち上げない介護なのか」やスライディングボードやフレックスポードの使用例を分かり易く実践に取り組みめるように致しました。

これまでに一番遠いところでは北海道からこの方式を学びに来た介護職員もおりました。今後もより広い形で多くの介護にかかわる皆様にお伝えする機会を持つてまいりたいと思います。





祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が表彰されました。  
おめでとーごさす。

◎瑞宝双光章

さやま園 元園長 飯島 忠夫

◎全国私立保育園連盟保育功労賞

つつじが丘保育園 園長 上林 唱子

◎東京都社会福祉協議会会長表彰

サンライズ武蔵野 母子支援員 高階 百合

資格取得の紹介

左記の方々が資格を取得しました。  
日頃の業務に活かして活躍を期待します。

【社会福祉士】

さやま園 生活支援員 深代 晴香  
小茂根福祉園 生活支援員 片岡 和人

【介護福祉士】

原町ホーム 相談員 富谷 茉由  
介護職員 福島 良  
ゆたか苑 介護職員 永澤 乙実  
小茂根福祉園 生活支援員 茂木まどか

【精神保健福祉士】

フジホーム 主任生活相談員 浅見 友博  
アミニティ富士見 生活支援員 木村 美菜  
双葉園 副主任保育士 倉持 謙由  
児童指導員 山下 茜  
高嶋の家 児童指導員 阪口 優

【介護支援専門員】

原町小規模多機能 居宅介護センター 介護職員 峰 真理子

さいわい福祉センター

生活支援員 木村 隆浩  
母子支援員 縣 聡史

ご支援ありがとうございました(敬称略順不同)

ご寄付

◇社会福祉法人村山苑 職員有志一同 代表 杉山陽子◇マツダ ライサービス◇東京都同胞援護会 後援会

後援会

◇千修館 海野昌伸◇伊藤彰浩◇木村伊三夫◇高伸智子◇唯野信廣◇高橋暢子◇原町三丁目町会長 土屋勝◇中村健一◇中村定徳◇南雲栄一◇中村屋魚店◇神鳥谷知己

◇広田規子◇福家謙介◇アーキベルク一級建築士事務所◇南海老山◇桶川工業(株) 代表取締役 西村匠◇おしゃれの店ひらまつ◇有荒井精肉店◇(株)石塚家具店◇(株)相田土居設計◇エコア(株)◇(株)共伸インテリア 代表取締役 小池譲◇(株)キタジマ◇(株)コスモス医工◇(株)木の里工房 木薫◇(株)金井商店◇国立厨房サービス(株)◇昭和の森エリアサービス(株)代表取締役社長 新行内敏弘◇桑都ビル管理(株)◇日清医療食品(株)東京支店◇(有)肉の高大

◇ネオ・ハルト(株)◇(株)豊明 代表取締役 北村和幸◇(株)ハーティーマネージメントダスキン松原支店 代表取締役 阿部博人◇(有)原島組 代表取締役 原島和敏◇(株)三ツ矢◇(福)森の会広域地域ケアセンターバオバブ 施設長 荒木敬一◇(福)村山苑 理事長 品川卓正◇横田屋米店◇吉村電気工事(株)◇(有)リハビリサービス◇(株)和光電気

※「同援だより」名前掲載希望欄に  
○印をご記入頂いた方のみ掲載しております。





バザー等ご協力  
ありがとうございました

○東村山生活実習所まつり  
五月十五日(日)

○同援みどり保育園バザー  
五月二十八日(土)

○同援さくら保育園バザー  
六月十一日(土)

○むさしの保育園  
サンライズ武蔵野合同バザー  
六月十一日(土)

○小茂根福祉園 こもねフェスタ  
七月九日(土)



お知らせ

左記の予定でバザーや夏まつり等を開  
催致します。品物のご寄附ご協力等よろ  
しくお願い致します。

○むさしの保育園はじっこ盆踊り  
七月十五日(金)十四時

○大山保育園 夕涼み会  
七月十五日(金)十七時三十分

○同援はいじま保育園 夕涼み会  
七月十五日(金)十六時三十分

○同援さくら保育園夏祭り夕涼み会  
七月十五日(金)十八時三十分

○むさしの保育園方南分園  
縁日夕涼み会  
七月二十二日(金)十六時

○つつじが丘保育園夏祭り  
ミニバザー  
七月二十二日(木)十六時

○サンホーム納涼祭  
七月二十二日(金)十八時

○さやま園夏祭り  
七月二十六日(火)十六時三十分

○ゆたか苑 夕涼み会  
七月二十七日(水)十五時三十分

○昭和郷納涼の夕べ  
七月二十八日(木)十七時三十分

○さいわい福祉センター夕涼み会  
八月六日(土)十七時

○同援みどり保育園 夕涼み会  
八月二十六日(金)十八時

○サンライズ青山 秋祭り&バザー  
十月一日(土)十二時

○児童センターぱれっと 感謝祭  
十月二日(日)十時

○合同さやま園祭  
(ひかり苑・サンホーム合同)  
十月十六日(日)十時

○ゆたか苑 地域交流バザール  
十月二十二日(土)十時

○昭和郷フェステバル  
十一月三日(木祝)

○むさしの保育園方南分園バザー  
十一月十二日(土)十二時三十分



○大山保育園 ぽかぽかバザール  
十一月十二日(土)十二時三十分

○小茂根福祉園 こもねまつり  
十一月十二日(土)十二時

○さくらんぼ祭り  
十一月十三日(日)十二時三十分

雑 感

今年、私の大好きだった音楽家が引退をします。最後の公演ということでチケットを取り観に行つてまいりました。ステージには、私が音楽を始めたころからあこがれていた姿があり、プロとしてのポテンシャルの高さがあり、そして良い具合に歳をとられていました。私も格好の良い歳のとりかたを目指したいと感じた春でした。  
(池田 記)

― 表紙の写真 ―

「石垣島川平湾にて」(南山京子氏)

平成二十八年七月十五日 発行  
東京都新宿区原町三の八  
電話 〇三(三三四一)七二六一  
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会  
発行者 牧野洋一  
印刷所 東京都同胞援護会事務局  
東京都墨田区両国四一―八